

# 感動一点の場

『無題』

1971年 小川原 脩 画

1970年の晩秋、小川原脩は根室・知床へ『旅』への憧憬を心に秘めて『旅行』に出た。この時見た情景、その心境を北海道新聞※に寄稿している。納沙布、羅臼などを巡り、灯台や原野、そしてトドワラを目にして想いを馳せた。

「トドワラ」とは別海町のオホーツク海沿岸部、野付半島にある、トドマツなどの枯れ木が残る一帯をさす。私自身も数年前「地の果て」への憧れのようなものを抱いてトドワラを訪れたことがある。白骨化したような枯れ木がポツンポツンと点在し、荒涼とした風景が広がる。小川原も「巨大な生物の骸骨の捨て場みたいに奇怪で荒廃した風景」と表現している。

根室の原野の枯れた大地の色と、濃く垂れ込める雨雲を思わせる空の色。画面を上下に大きく二分する色彩は、1970年代中盤の作品の土台となっていく。この作品はその中で、犬とトドワラを選び組み合わせたもの。手前に大きく描かれた茶ぶちの犬が、さっと伸びやかに駆け横切ってゆく。一方で朽ちるまでの果てしない時間を宿すトドワラ。透き通るような淡いブルーが、まるで樹木の幽霊のようだ。

「ちいさな犬の作品たち」展では、犬と描かれる「何か」も数多く登場するのでお楽しみいただきたい。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

※北海道新聞（昭和45年12月4～8日）「根室・知床の旅」①～④えと文 小川原脩



## ふるさと探訪

420回

### —今年の積雪深を振り返る—

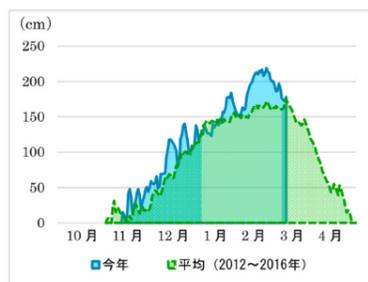
多雪地というだけあって、倶知安では雪の「多い」「少ない」が人々の生活を左右します。例のごとく、今年も除雪が大変な冬でした（おかげで良い運動にもなりました）。実際、どのくらいの積雪があったのか、倶知安町HPで公開している積雪深のデータをもとに振り返ってみましょう。

右のグラフは、積雪深の推移をまとめたものです。青い実線は今冬の積雪深、緑の破線は2012～2016年冬の平均積雪深を示しています。このグラフからは次のことが読み取れます。①平均して今年は積雪が多かったこと②初雪は遅かったものの、すぐに根雪になったこと③毎月ドカ雪があったこと、などです。年最大積雪深についても見てみましょう。1944年～2005年の積雪深ランキング1位は312㌢（1970年）、10位は228㌢（1977年）だそうです。今年の最大積雪深が221㌢（3月12日時点）なので、あと7㌢でランクインでしたね…惜しい。

二つのデータから「今年は雪が多かったものの、ズバ抜けて多かったわけではない」ということがわかりました。実感と比べてどうでしたか。

倶知安町において、雪は大切な観光資源でもある反面、重労働を強いるものでもあります。そういった意味で「今年の雪はどのくらい多いのか」というような話題は身近で大切なものではないでしょうか。

文：上井 達矢（倶知安風土館 生涯学習専門員）



▲積雪深推移 (3月12日現在、元データの出典は町HP)

## 展覧会のお知らせ

### ■常設展示

小川原脩展「アジアの街角で」

会期：開催中～4月15日（日）

小川原脩展「小川原脩 遙かなるイマージュⅠ」

「遙かなるイマージュ」は1988年に開催された回顧展（道立近代美術館）の副題で、小川原脩の長年の創作姿勢を表しており、本展では小川原作品の全年代をご覧ください。また、前年度修復作品「植物園」（1937年）を公開予定です。

会期：4月28日（土）～8月26日（日）

### ■企画展示

「くっちゃん ART2018」

会期：開催中～4月15日（日）

武内コレクション・プラス展「ちいさな犬の作品たち」

道内外の著名な作家作品が多く含まれる故・武内一男氏寄贈の「武内コレクション」、その多彩な作品をご覧ください。あわせて、小川原脩の愛らしい小品「犬・Ⅳ」を中心に「ちいさな犬たち」の作品をご紹介します。

会期：4月28日（土）～7月8日（日）

## アート・イベントのお知らせ

### ■土曜サロン

アート探訪〈みて☆きいて〉13「サルバドール・ダリ～世界が愛した芸術家」(映画「アンダルシアの犬」付き)

独特の口ひげと奇行で知られる異色の画家ダリ。その芸術は、幻覚や意識下の世界を写實的に表現するなど、シュルレアリスムに一時代を画し、小川原脩を含め日本にも大きな影響を与えます。

日時：4月7日（土）14時～15時

お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム（無料）

### アート・トーク

新年度最初の企画展示は、「ちいさな犬たち」がメイン・テーマ。当館学芸員が、展覧会場の中で、皆さんと楽しくお話をしながら、小川原脩の魅力あふれる世界をご紹介します。

日時：4月28日（土）14時～15時

お話し：沼田 絵美（当館学芸員） 会場：当館第2展示室（無料）

### ■アート・シネマ館

「SALVADOR DALI」1987年/75分/イギリス（字幕）

スペインが生み出した20世紀最大の芸術家ダリ。その絵画、彫刻、随筆、ファッション、映画という多岐にわたる作品の数々、神秘的な人生、情熱的な人柄を紹介するドキュメンタリー映画。

日時：4月14日（土）14時～15時30分 お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム（無料）

### ■平成30年度展覧会スケジュール

	展覧会名	会期
常設展示	小川原脩展「小川原脩 遙かなるイマージュⅠ」	4月28日～8月26日
	小川原脩展「小川原脩 遙かなるイマージュⅡ」	9月29日～平成31年1月20日
	小川原脩展「小川原脩 遙かなるイマージュⅢ」	12月20日～平成31年4月14日
企画展示	武内コレクション・プラス展「ちいさな犬の作品たち」	4月28日～7月8日
	しりべしミュージアムロード展「花」	7月14日～9月24日
	第60回麓彩会記念展	9月1日～12月16日
	くっちゃん ART2019	平成31年2月2日～4月15日

※展覧会の内容、会期は変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください



小川原脩記念美術館 ☎21-4141  
観覧料：一般 500円(400円)  
高校生 300円(200円)  
小中学生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎22-6631  
観覧料：一般 200円(100円)  
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時  
(入館は16時30分まで)  
※( )内は10名以上の団体料金  
4月の休館日 3日・10日・  
16～27日(展示替え休館)

### 学芸員は楽しい!

先日、札幌の近代美術館で北海道美術館学芸員研究協議会というやたら長い名称の研修会がありました。全道各地、約90人ほどの会員による結構真面目な会で、例えば今回の内容は、浮世絵の摺り師による実演や作品借用にまつわる各館の事例報告でした。

ただ、皆さんが期待しているのは、むしろ他館との交流、情報交換。多くの美術館では、一人しかいない学芸員が、日々悶々と試行錯誤しながら活動しているのが現状です。ですから、懇親会は実に賑やかで会話の渦。私も旧交を温めつつ、若い学芸員を紹介して歩き回りました。美術に人の輪が加わる時、喜びが、一層大きくなることを実感するひと時です。ちょうど当館の土曜サロンのように。

館長 柴 勤